

令和4年度 沖縄県立芸術大学教育研究支援資金 事業報告書

喜 多 祥 泰¹⁾

《研究課題》 琉球石灰岩を使用した顔料研究

1. 研究概要

今回の研究は、日本画の物理的性状の定量的観点を得ること、今後の新たな日本画表現を展開することの2点に力点をおいている。日本画とその周辺文化を無形文化財として保持し発信することを目的としている長期研究の一環である。令和4年度は「顔料」に着目し研究した。作品熟覧による検証と琉球石灰岩の研究を行い、海をよごさないサステナブルな沖縄独自の琉球岩絵具開発を試みた。

2. 研究期間 令和4年4月～令和5年3月

3. 研究成果

①研究に必要な継続的な琉球石灰岩の確保の道筋と今後の活用

琉球石灰岩の特徴・産地・活用について理解を深め、南城市・武村石材建設（武村朝元氏）から【a. 琉球石灰岩の工場切り出し微粉体】を大1箱小2箱、【b. 山での琉球石灰岩の切り出し時のタクヨウガン（糸満コチンダー川産）粗目粉体】を大1箱、【c. 鉱山での琉球石灰岩の切り出し時の粗目粉体】を大1箱、ご提供頂いた（以降、a、b、cと表記する）。b/cともに継続した入手は難しいが、aに関しては、採石業者においても破棄に経費がかかっているもので、継続した入手が可能であり、活用することによって、社会貢献できることがわかった。しかしその精製工程によって極めて細かな微粉体となっており、即活用するには工夫が必要な材料であることも明らかになった。

②琉球絵画熟覧による検証からの発展

孫億作品熟覧による研究を進めた。今年度は、美ら島財団から後期琉球絵画絵師佐渡山安健筆《花鳥図 牡丹尾長鳥図》の画像借用についての許可と作品画像の提供を受け、絵画専修日本画分野における模写授業教材として使用した。

③海をよごさないサステナブルな沖縄独自の琉球岩絵具を開発・試用する

以前からの研究に続き、令和4年度入手したb/cは、日本画顔料として即用できる性質であったため、制作への試用と学生への共有を先行して進めた。自身の研究成果（琉球岩

1) 喜多 祥泰（沖縄県立芸術大学）

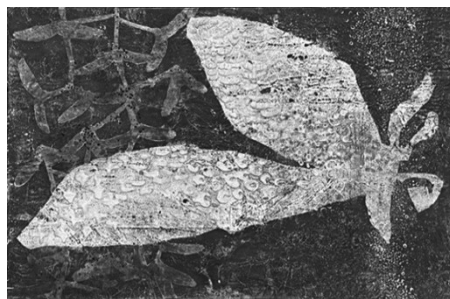
絵具を使用した制作)として、第49回創画展《夏の地図》《夜の地図》入選のほか、創画展若手会員有志による選抜展 will + s 展 2022 にて《蝶の地図》が will + s 展賞を受賞した。(令和4年度成果:創画展2回入選、個展7回、グループ展7回)

4. 検証・考察

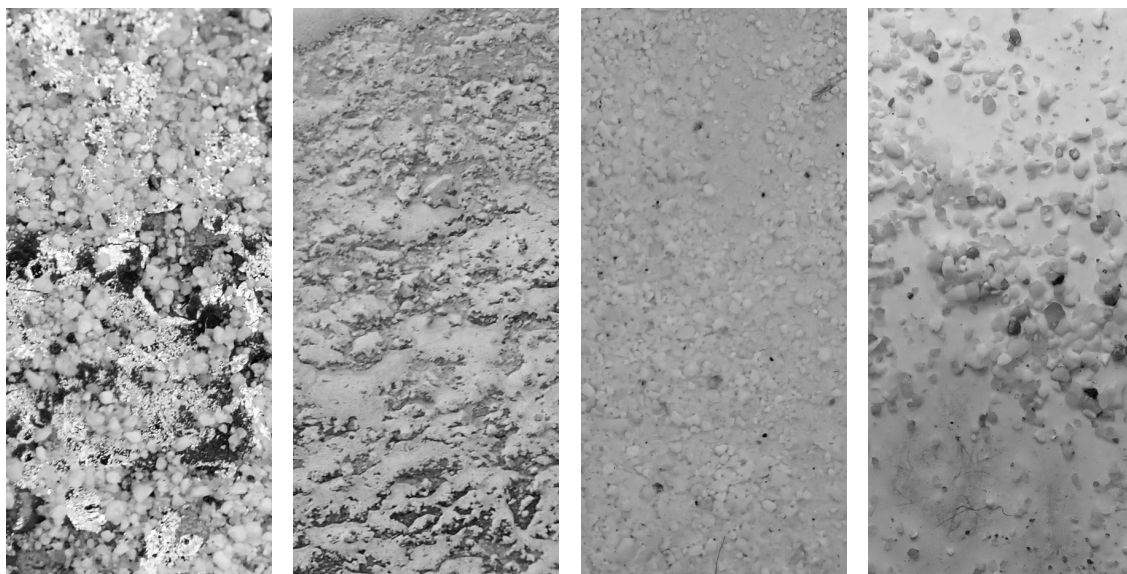
琉球石灰岩のaの試用について、先行研究を行う女子美術大学の宮島弘道教授の研究協力を受け、「粒子混合」(他の粒子の大きな琉球石灰岩の粉体を混ぜ込んで引っ掛かりをつくること)による水干顔料(胡粉を使用するような感覚)として使用できることを仮目標と設定し、炭酸カルシウムを主成分とする方解末顔料(大きめの粒子)を加え著色を行った。

5. 展望

令和5年度 基盤研究(C)「東アジア伝統絵画の技術継承と人材育成のための琉球絵画研究」に採択され、継続した研究を行っている。今後の展示機会も活用し、琉球岩絵具や琉球紙などの新たな東アジア伝統絵画の可能性を模索していきたい。後期琉球絵画の検証については、他機関の協力を得て、今後継続して研究を行う。



琉球岩絵具の試用例 《蝶の地図》
2022年 Will+s 展賞受賞



琉球岩絵具の試用例 (学生作品の一部を拡大)